

念願の全国制覇へ視界良好!!

経スボ



2016年4月の日(土)か
5月7日(土)
に関西学生ハンドボール奉賣リ
グ戦が行われた。
今リーグ戦で
4位以内に入れば、全日本学生
ハンドボール選手権大会の出場

4月9日(土) 初戦は大阪体育
大学と対戦。ハンドボール部の持
ち味はティーフェンスからの速攻だ
が、初戦の緊張から自分たちの持
ち味を發揮できず。相手の攻撃
を守りきれず、相手の速攻で点を
取られたことで相手のペースにの
り、出場権を獲得した。

まれ、前半を10対17で折り返した。しかし、後半には緊張がほぐれ、後半10分までにギー・バーの活躍もあり、相手を無失点に抑え、2点差まで追い上げた。しかし、相手も点数を重ね、健闘むなし試合終了。結果として21対25で本学は初戦を落としてしまった。「まだ元気だ」と気持ちを切り替えて次の試合挑んだ。

童誠（人間科学2年）が得点を記さず、このまま23対23の同点で試合終了となった。

處を8点に抑えるなど好守を見せた。チームが流れに乗り、守りから速攻も決まるなど、前半で15対8と大きリードして折り返す。後半もスタートから集中を切らさず、徐々に点差も離していく。途中流れが悪くなる場面もあったが、気持ちを切らさず本学の強さを見せつけ27対17で勝利した。

5月7日(土) 出場権獲得まであと1勝。ここ数年勝つことが出

目標に掲げた「生ハンド」の出場権までの結果、「キヤノン」が学校関係支援がある遂げるところ、「JAPAN」ができない。」

ていた全日本スケート選手権大会で優勝した。このから始まる

の行われる西日本大会で、今後もこの大会に於ける日本学生ハンドボール選手権大会においてますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

31年連続51回目の全国大会出場!

発刊：大阪経済大学
スポーツ・文化振興課

三

まれ、前半を10対17で折り返した。しかし、後半には緊張がほぐれ、後半10分までにキーパーの活躍もあり、相手を無失点で抑え、2点差まで追いついた。しかし、相手も戻数を重ね、健闘むなしで試合終了。結果として21対25で本学は初戦を落としてしまった。「また初戦だ」と気持ちを切り替えて次の試合挑んだ。

章誠（人間科学2年）が得点を計り、このまま23対23の同点で試合終了となった。

4月29日（金）4戦目は関西学院大学と対戦。前半14対17で相手に喰らいついていたが、後半勢いに乗った関西学院大学に徐々に引き離され、25対32で敗北。

この時点では、残りの戦で1敗も出来なくなってしまった。しかし、ここから本学ハンドボール部が粘りを見せた。

5月1日（日）5戦目は京都産業大学と対戦。1つも試合を落とさないフレッシャーのなか、本学は自分たちの持ち味である、守りからの速攻でベースを作り、メンバー全員が気迫のプレーを見せた。ベースが相手に流れそうになつた時、チームの司令塔である主将の望月健司（経営4年）が手堅く1点を取り、ガツツボーズを見せるなど、チームを率いる強い主将の一顔を見せた。後は主要メンバーの2人が一時離脱するが、控えメンバーの活躍もあり、28対26、勝利した。

5月4日（水）出場権獲得まであと2勝とし、天理大学と対戦。試合前の練習が暴風警報の影響で充分に行きず、不安が拭えなかつた。しかし、ここで調子を上げたのがゴールキーパーの通事佳徳（経営4年）だ。前半、相手の得

点を8点に抑えるなど好守を見せた。チームが流れに乗り、守りから速攻も決まるなど、前半で15分ほど大きリードして折り返すが、気持ちを切らさず本学の強さを見せつけ27対17で勝利した。

5月7日(土) 出場権獲得まであと1勝。ここ数年勝つことが出来ない近畿大学との最終戦、出場権獲得のプレッシャーがかかる大事な戦。ここでもゴールキーパーの通事がスーパー七ヘルを見せ、スタートから勢いに乗る相手も得点を重ねる

が、本学が徐々に点差を広げていき、19分の大差で前半を折り返す。ハーフタイムで全日本選手権出場への気持ちや勝ちたい気持ちを再確認し後半に挑む。後半も守りから速攻で点数を重ね、自分たちの持味を生かした試合展開になった。その後、相手を寄せ付けない強さを見せ、後半15分で終え34対19で庄勝。

プレシャンの出場権までの結果目標に掲げた。生バンドは、これまでの結果賛同校の支援がある。学校関係者が、遂げるところではない。日本選手権はそこへ、必ずある。これらの活躍がいい。

のかかるなか、
ていた全日本
一選手権大
獲得した。」
出せたのも
保護の方々
の方々の温か
だからこそ成
が出来た。し
こから始まる
会での「優勝
ボール部の目
れに向けて、
天に期待し

関西学生ハンドボール春季リーグにおいて第3位の成績を残すことができ、全日本学生ハンドボール選手権の出場権を獲得することが出来ました。昨年度迎えた大きな節目からもう一步踏み出し、31年連続51回目の出場を達成できたことは多くの皆様からの変わらぬご尽力あってのことだと思っております。この場を借りてお礼申し上げます。しかし、春季リーグにおいて頂点を目指してきたチームとしてはいまいち点をとることができず、

ベストセブンに選ばれたのは、経大ハンド部に関わってくれた皆さんのおかげです。試合でいるメンバー、ベンチメンバー、応援席のメンバー、スタッフ陣、保護者の皆様、学校関係者の方々の支援があつてベストセブンの賞をもらえたと思っています。今年の目標は、経大の持ち味であるディフェンスから速攻を生かして、ます西日本の大会で「優勝」することが今の目標です。

今年の西日本の大会は大阪での開催でするので、お時間がよろしければぜひ足を運んで見に来て頂きたいです。

宇田津 武将(今大会 ベストセブン)

今回、春季関西学生ハンドボール大会で3位という結果で、全日本学生ハンドボール選手権大会の出場権を獲得することができました。これがチームメンバー、保護者の皆様、監督やトレーナー、学校関係者のおかげでできました。今回で31年連続51回目の出場の記録を更新することができ、絆ハンドボール部の伝統を守ることができました。今回の結果で満足することなく、まずは西日本の大会で優勝することを目指し、これから練習に励んでいこうと思うので応援のほどよろしくお願いします。

VOICE